

北の縄文文化回廊
づくりに向けた活動



通 信

第 7 号



縄文服記念撮影のようす

目 次 はじめに 平成16年度活動内容 学習…2・3 イベント…4・5
参加・協力…6 学習…7 情報コーナー…8

はじめに

平成16年度はクラブにとって活動の柱となる縄文土器づくり大会では、新しい試みを行った一年でした。土器づくり以外に縄文服の記念撮影、縄文食の試食、植物から糸を作る工程や道外の縄文土器（写真パネル）の展示コーナーを設け、参加者の方々がより楽しめるイベントになるように工夫しました。また、新しい活動として勾玉づくりを行うなど、活動の種類を豊富にし、内容をより充実させるよう取組み始めました。みなさんがより楽しめる活動を目指して、これからも創意工夫を図っていきたいと思います。

以下、16年度の活動内容の報告になります。

平成16年度 活動内容

学 習	アンギン編み機づくり、骨角器づくり・釣り、勾玉づくり、アンギン編み講習
イ ベ ント	2004縄文土器づくり大会、野焼き (会場は釣り・野焼きを除いて函館市南茅部公民館)
参加・協力	三内丸山お月見縄文祭・大湯環状列石古代焼き大会

アンギン編み機づくり

6月26日(土)にアンギン編み機づくりを行いました。この編み機づくりは昨年から継続して作成しており、平成14年の火災で焼失した編み機20台とコモツチ320個の回復も考えられて行われてきています。会員の方からは「この編み機で自宅でも好きな時に編めます!」と評判の活動です。

今回は19名が参加しました。そのうち三内丸山応援隊からの参加者は普段自分たちが作成し、愛用しているものとは違う独特なスタイルの編み機に興味津々で作り始めました。

私たちの編み機の最大の特徴は、保管スペースをとらないように折りたためることです。応援隊のみなさんは自分たちのスタイルと異なる編み機に驚き、戸惑いながら、また何人かは慣れない手作業に苦勞しながらも、自分だけの編み機に集中し、熱心に作成していました。

2、3時間の作業を経て各々の思いと愛着のこもった編み機が完成しました。また、アンギン編みのベテランの方(応援隊)がいて、アンギン技法で編んだベストを持参して見せてもらいました。初心者の方だとアンギンを15cm四方を編むのにも2時間はかかることから考えると、まさに熟練のなせる技と感動しました。頂いたベストは今年の縄文土器づくり大会の縄文服記念撮影会場に展示されました。

今回の参加したみなさんも自分の作品に満足され、このベストのような大作を自分の編み機で編んでみたいと口々に語り、期待感に溢れていました。



編み機づくりに集中する応援隊のみなさん

骨角器づくり・釣り体験

今回は10月23日に釣り針づくり、翌24日に各自の釣り針で釣り体験を実施しました。参加人数は18名で、今回は三内丸山応援隊の方が5名参加されました。

釣り針づくりは、あらかじめ用意した鹿の角のプレート(3×2cm、「し」の字の形)に鉛筆で釣り針の形を描き、現代のヤスリと砥石で削りあげるとい手順で進んでいきます。砥石で荒削りをして、最後にヤスリをかけて「かえし」や糸をかける溝など細かい部分を調整していきます。荒削りの段階では、水に漬けておくとお思った以上に削りやすく、独特の匂いも若干和らぐようです。

作業が進むに従って、集中の度合いは高まってきました。最初は会話も弾んでいましたが、ひたすら削る作業の中で「縄文時代の人たちはどんな道具を使って、どんな方法でこんな想像以上に堅い鹿の角から精巧な釣り針を作ったのだろうか。」という声が知らず知らずこぼれてきます。

湾曲部分にこだわる、あるいはかえしをさらに鋭くするなど個性を加え、なんとか時間内に完成！思い思いの釣り針を手みんなニンマリ。翌日の釣果に早くも思いをはせている様子でした。

翌24日、各々の労作・自信作を手安浦漁港で釣りを開始しました。早朝の寒さと「釣るぞ！」という意気込みで眠気は吹き飛びます。釣り竿は現代のものを使いましたが、すでに気分は縄文人です。

エサを自慢の釣り針に付け、糸を垂らし、魚がかかるのを待ちながら、水面をにらみます。釣れないもどかしさにそれぞれ場所を変えたりしながら、1時間が経過した頃、突然のどよめきの歓声の輪の中で応援隊の斉藤先生の釣り竿がしなり、ついにカサゴが釣り上がりました。体長は20cm。これに続けと意気込んで釣り糸を垂らし、1時間ほど続行しましたが、釣果はカサゴ1匹でした。

釣りの後はみんなで朝食を食べながら冷えた体を交流の輪で温めました。

10月末という時期のため思ったような釣果が得られませんでした。次回は季節と魚の回遊の時期を考え、釣り針づくりの日程そのものに工夫したいと思います。



夢中になって削ります



自慢の釣り針で見事に釣り上げました



次こそは・・・と記念撮影



100名の参加者が集まりました



土器のパネル展示と糸の復元展示



仲のいい縄文人の一家！

2004 縄文土器づくり大会・野焼き 土器作り

9月5日、縄文土器作り大会は、回を重ねて今年で7回目を迎えました。大会には、函館市内をはじめ札幌や横浜など道内外から約100名の常連さん？が参加しました。

今回は、縄文時代中期の土器をテーマに、会場に展示された大船遺跡出土の本物の土器や、青森県三内丸山遺跡、秋田県大湯環状列石、岩手県御所野遺跡から出土した土器のパネルを参考にしながら土器作りにチャレンジしました。また、パネルと併せて縄文土器の文様の原体となる縄を、アカソやカラムシの植物から採った繊維で、糸が出来るまでの様子を復元した展示は、とても好評でした。

午前10時から始まった土器作りは、それぞれがイメージする形が指先から粘土に伝わり、少しずつ積み上げては指で撫で、眺めては積み上げ次第に形となって4時間ほどたった頃には、目の前にオリジナリティーあふれる土器が出来上がっていました。縄文人に負けず劣らず？の出来映えに、焼き上がる日を楽しみに皆満足の笑顔でした。

縄文服記念撮影

縄文人が服を着て立っていたなら、皆さんはどのような姿を想像するでしょうか。3000年以上遡った昔の人々が、実際にどんな服を日常着用していたのかは、想像の域を出ませんが、クラブ員手作りの縄文服を着て、ちょっぴり縄文人の気分を味わって頂く企画を立てました。今年初めての試みとして、特製縄文服を8着ほど用意し、お気に入りのものを着ての記念撮影です。当クラブ木村貴先生の力作「縄文村」の絵の前で、希望された30名あまりの方々が、お好みのポーズをとりました。デジタルカメラで撮影し、その場で印刷しお渡しできましたが、改めてモデルになって頂いた皆さまに感謝！



想像以上に美味しい縄文食でした

縄文食体験

大会当日は縄文鍋と縄文クッキーを作りました。クッキーは干しぶどう入りとクルミ入りの2種類を作り、袋に2枚ずつ入れて、参加者の皆様に配りました。素朴な味が結構おいしかったと思います。

縄文の風を感じられたでしょうか？

鍋の方はフキ、ワラビ、アサリ、柔らかい昆布、椎茸、タケノコ、鮭などを入れて、昆布だしで塩味にしました。おいしいと好評でおかわりをしている方が何人もいてとてもよかったです。皆さん土器づくりの合間の昼食で縄文食を食べながら笑顔で会話も弾んでいるようでした。

縄文時代に食べられていた味はこんな風かな？スタッフ達も作った甲斐があったと喜んでいました。

野焼き

10月3日、南茅部バイパス沿いの広場で野焼きを行いました。この日は時折風が強く吹くことから、飛び火しないよう広場全体に水を撒きながら、下焼きを開始しました。1時間程でレーン全体が乾燥し、遠火で土器を炙りながら仮焼きに入ります。この段階で土器が十分乾燥しないと、本焼きの際に割れたり、ヒビが入ることになるので、まんべんなく乾燥するように向きを変えながら、少しずつ炎に近付けてます。参加した30名は慎重に、そして、丁寧に土器を扱い、その様子はまるで赤ちゃんをあやすかのように。その後、土器の色が明るくなったら、熾き火の周りに並べ、全体に炎が行き渡るように薪を組んで一気に燃やします。この本焼きが焼き上がりを左右するので、作品の向きを変えたり、炎の強弱を調整したり、全員が煙や熱と戦います。

この苦勞が報われるのが、炎の中から現れる土器を眼にする瞬間で、厳かな気持ちすら覚えます。焼き上がってゆく土器は、大きさ、形、文様も様々で、作った人の込めた想いが伝わってくるようです。秋空の下で、互いに土器を見比べながら自然と笑みがほころぶ、そんな一時でした。



焼き上がった土器を前にニコリ

縄文月間2004 in 秋田

～第22回古代焼き～

8月28日、秋田県大湯環状列石で行われた、古代焼きに参加しました。このイベントは古代焼き大会実行委員会（勝又幹雄委員長）が中心に22年の長きにわたって継続され、県外からも多数参加されます。昼下がりに会場に着くと既に準備が整い、周囲を露店が囲い、土器を作った子供達が環状列石の周りで古代焼きの開始を待ちわびていました。

夕暮れが迫る頃、古代焼きが始まります。縄文服を身にまとった集落のリーダーが火を起し、参加者一人一人の持つたいまつに移していきます。そのたいまつでこの野焼きレーンに火を付入れて土器を焼き上げていきます。この古代焼きは当クラブの野焼きと違い、藁を敷き詰め下焼きをして土器を乾燥させていきます。藁が燃え尽きたら薪をくべて、さらに火勢を強めていきます。日が落ちても燃え続け、夜の闇に包まれた午後10時過ぎ、燃やし続けた炎が自然に鎮火します。翌朝作品の確認をします。参加者はみんな自分の作品の出来に満足していたようです。闇の中立ち上る炎の柱を見て、感動を覚えた記憶に残る一晩でした。

勾玉づくり

11月27日実施の勾玉づくりは今回が初回ではありませんでしたが、18名の参加者が集まりました。縄文時代の勾玉の由来にはいくつかありその形状をもとにイノシシの牙から発生したという説や、胎児の形から発生した説などがあります。実際に遺跡から出土している勾玉の素材を紹介し、作業に移りました。

今回の材料は滑石という非常に柔らかい石を使い、はじめに三角形のプレートに勾玉の形と、糸を通す穴を鉛筆で描きます。千枚通しで穴を空け、デザインどおりに目の粗い紙ヤスリで削っていきます。ヒスイなどの堅い石と違い、どんどん削れ形が出来上がるにつれて気分はノって、思った以上に作業は快調に進みました。大まかに形が整ったら、次はもっと目の細かい耐水ペーパーで仕上げの磨きをかけます。水をつけながら磨いていくと艶が出て綺麗な光沢を放ちます。最後に糸を通したら思い思いの勾玉の完成です。



縄文人から火を移される



古代焼きのようす



丹念に磨き上げます

情報コーナー

紹介

○ 白尻小学校遺跡の発掘調査はじまる

5月9日から白尻小学校遺跡の発掘が始まりました。今回の発掘調査は2年計画の2年目にあたり昨年は5,300㎡を調査し、32軒の竪穴式住居跡（縄文時代中期～後期）、貯蔵穴、落とし穴が確認されており、火災を受けた住居も発見されています。土器や石器などの遺物はおよそ30,000点で、炭化したクリも発見されました。

今年は6,100㎡を調査する計画で、すでに竪穴住居などが数軒確認されており、土器や石器などの遺物も出土しています。

○ 函館空港展示コーナーオープン！

6月2日、函館空港のターミナルビル2階に、函館空港遺跡群資料展示コーナーが開設されました。このコーナーでは、滑走路延長工事の際に発掘された中野A・B遺跡（縄文時代早期）、石倉貝塚（縄文時代後期）をはじめ、南茅部地域の大船遺跡などから約100点の土器や石器が展示されています。見学料は無料。同ターミナルが開館中は自由に見学できます。

○ 市立函館博物館特別企画展開催中

合併記念特別企画展「あたらしい函館の文化財－縄文時代－」が市立函館博物館で開催されています。旧石器時代から擦文時代までの土器・石器・骨角器など約1,800点を地域や時期ごとに展示しています。期間は6月7日～8月21日。なお、8月8～21日には、南茅部地域から出土した国の重要文化財「中空土偶」が約3年ぶりに展示公開されます。この機会に是非一度ご覧下さい。

○ FMいるか「もっと知りたい！北の縄文ワールド」放送中

FMいるかでは、本年4月から毎週土曜日、午前11:00～11:10で北海道・北東北の縄文文化を伝える番組を放送しています。毎月第1から第4土曜日を北の縄文CLUB、三内丸山縄文発信の会、御所野遺跡を支える会、古代焼き実行委員会の順で担当し、活動内容や遺跡に携わる人々、それぞれの思いを紹介しています。また、8月以降は放送エリアが拡大されますので、お近くにお寄りの際には80.7MHzに周波数を合わせてお聞き下さい。

○ シーニックバイウェイ北海道 道南ルート申請に向けて活動中

「シーニックバイウェイ北海道」は“みち”をテーマに景観づくり、地域づくりを目指して、「千歳～ニセコ」ルート、「旭川～占冠」ルートをモデルルートに指定し、活動を展開しています。道南でもルート申請に向けた研究会が昨年9月に設立され、当クラブなどの代表者が参加し、いよいよ活動が開始されます。6月25日にはキャンプ&シーニック・ラリーが行われ、大船遺跡では遺跡見学とアンギン編み体験が実施されます。当クラブでも今後の展開に期待しながら協力していきたいと思います。

2005年6月

第7号発行

発行 北の縄文CLUB

連絡先 北海道函館市白尻町603-1

函館市埋蔵文化財事業団

TEL 01372-2-5510

FAX 01372-2-5606

メールアドレス

joumonc@yahoo.co.jp